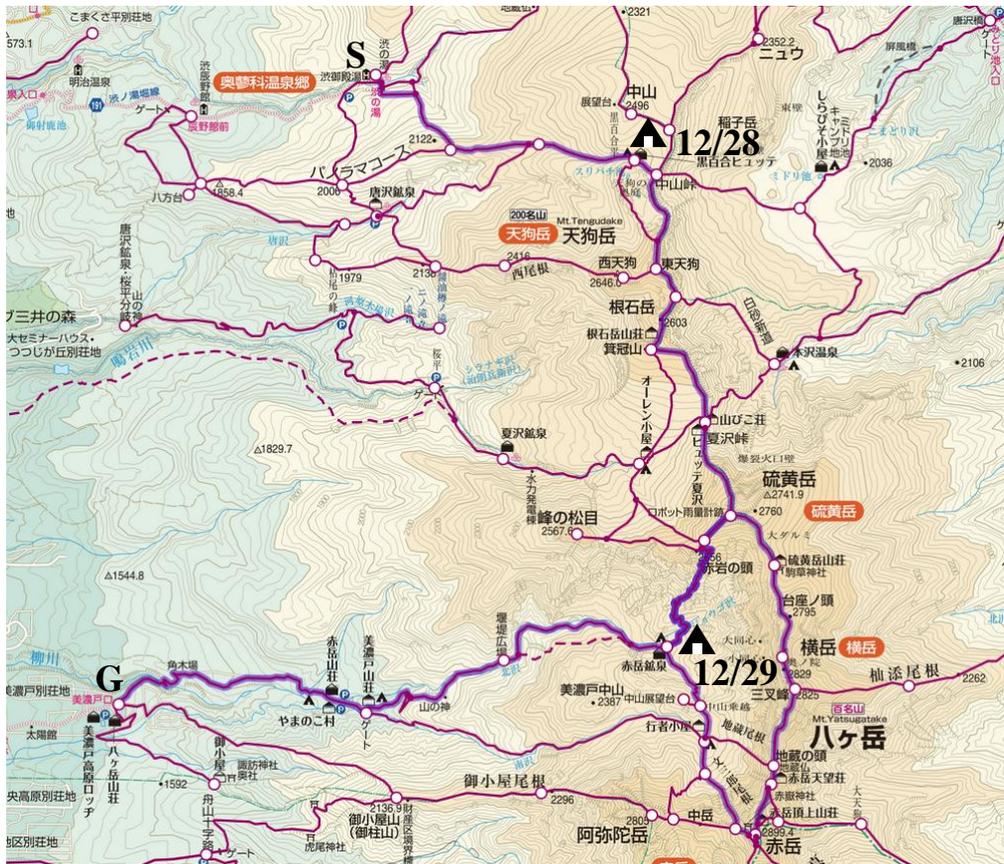


デンソー山岳部 2016年度 冬山合宿報告書

■山域 八ヶ岳

■日程 2016年12月28日~30日

■メンバー 小田(CL、装備)、谷川(SL、会計)、舘谷(食料、記録)



概念図

<第1日> : 12/28(水) 晴れ【小田記】

【行動記録】 歩行時間=1H45M

渋の湯駐車場(10:15)→八方台分岐(11:00)→黒百合ヒュッテ(12:00)

刈谷を6時に出発し渋の湯へ。駐車場までの道にそれなりに雪が積もっており、これから始まる山行に気持ちが昂ぶる。渋の湯駐車場で車から出ると山の冷えた空気が襲ってくる。しかし既に太陽がずいぶんと昇っているせいか下見に来た時ほど寒くはないように感じる。食糧と共同装備を分配し、出発。荷物の重みがずしりと両肩にのしかかる。しかし初日は黒百合ヒュッテまでなので少々重くても平気である。食糧長の舘谷君によると初日の夜はすきやきとのこと、なんとも楽しみである。快調なペースで登っていき八方台分岐まで45分ほどで到着。黒百合ヒュッテまで昼ぐらいには到着しそうだと話していたが、本当に12時には黒百合ヒュッテに到着



快晴の黒百合平に幕営

してしまった。テン場の奥手にトヨタ自動車さんの方々がテントを既に設営していた。挨拶に伺うと、これから天狗ピストンをやるとのこと。さすがである。我々のほうはテントを設営して、早くも乾杯した。

日が暮れてしまい夜になると流石にかなり冷え込む。そんな中、一度トヨタ自動車さんのテントにお邪魔しにいろいろという話になり、すき焼きをある程度平らげて移動開始。なんとお邪魔した先でも同じすき焼きをされていた。やっぱり、冬は鍋ですよと共感しつつ、一緒に乾杯し、お互いの山行の無事を祈った。



トヨタV6内 人口密度高し

<第2日> : 12/29(木) 晴れ後曇り(後晴れ) 【谷川 記】

【行動記録】 歩行時間=5H50M

起床(3:30) → 黒百合ヒュッテ発(5:10) → アイゼン装着(5:40) → 東天狗2646m(6:25) 写真撮影 → 根石岳2603m(6:50) 写真撮影 → 蓑冠山(みかぶりやま)分岐(7:00)1本 → ヒュッテ夏沢(7:35)1本 → 硫黄岳への稜線手前(7:55)ゴーグル装着 → 硫黄岳2760m(8:40) 写真撮影 → 硫黄岳山荘(9:05)1本 → 横岳への稜線上(9:25) 撤退 → 硫黄岳山荘(9:30) ルート検討 → 硫黄岳(10:00) 通過 → 樹林帯(10:20) → 赤岳鉱泉(11:00)

前日のすき煮うどんの汁が辛かったので、夜中に喉がカラカラで何度も起きた。水を飲みたかったがザックの中で、取り出す気力が起きず、つばを飲み込んで目を瞑るの繰り返し。睡眠はまあまあ取れたが、水をシェラフに入れておく事を肝に命じた。他の2人も同様だったようだ。



東天狗

朝食のパン(ランチパック)とスープを頂き、真っ暗な中、手早くテントを片付け出発した。天気は良いようだ。ゆっくり目で歩く事を心掛けたが、少しペースが速かったようで、息が上がる。樹林帯を出るあたりで、夜が明けて空が白んでくる。稜線の急登まえにアイゼンを装着し、東天狗に向けて登る。館谷君から教えてもらった新しいグローブ「テムレス」を装着した。これは本来作業用の手袋だが、安くて実に調子が良く、防水で風にも強い。そんな事を実感しながら、東天狗に到着

する。日の出は近いが、先を急ぐ。ここまで、数人を追い越した。あまり賑やかではない。途中で日の出、胸が高まる。

程なく根石岳に到着。ここから根石岳山荘まで降りていくが、風が強い。山荘は年末年始営業で煙が煙突から上がっていたが、スルーして樹林帯の葎冠山分岐まで我慢して一本。ほっと一息。その後の樹林帯でメガネが曇る。風が無いので曇りが取れず、ヒュッテ夏沢でメガネを拭く。メガネは冬山では厄介だ。いいペースで来ていたが、稜線の風が強く、硫黄岳への稜線手前でゴーグルを装着した。硫黄岳への登りがきつかく、ぱてる。他のメンバーは元気そうだ。風は弱まる気配はない。

それどころか、晴れだったはずが、ガスっていて視界も悪い。うーん、天気予報を恨みつつ進む、硫黄岳到着。



根石岳



硫黄岳

硫黄岳山荘まで降りていく。一人とすれ違ったので、行けそうかなと思うが、風は相変わらず強い。山荘の陰で一本。いよいよ核心部だと、気合を入れて、稜線を登って行く。しかし、風が更に強くなり、ザックごと押し倒される。右膝を打ち付けて、しばらく悶絶する。他のメンバーは耐風姿勢。ここでCLから撤退の指示。耐風姿勢から、5m戻る。この5mで風のレベルが変わる。後で確認したら、膝に打ち傷、パンツも破れてしまった、トホホ。

再び硫黄岳山荘の陰で、撤退ルートを確認し、翌日の再アタックを考えて、赤岳鉱泉まで下る事に決まる。風の治まらない中、硫黄岳までを登り返し、赤岳鉱泉への樹林帯を下る。先ほどの暴風はどこへやらで、のどかな雰囲気。ほどなく、赤岳鉱泉に到着。その後、八ヶ岳は時間を追うごとに雲が流れ、晴天へと変わって行く。テントを張って、有り余る時間を過ごす訳だが、CLは今回のメインルートが撤退となり、茫然自失で明日の計画をどうすべきかで頭が一杯のようだ。

再アタックを第一案に協議するが、天気予報によると更に強風との事。自分はバテ気味な体調と、空荷とはいえ強風に対するリスクを考え、テントキーパーを申し出る。夕飯はおいしいキムチ鍋。昼間の歓談でつまみを食べ過ぎもあり、軽く食べて2日目終了。喉が渇くかもと、水を入れたペットボトルをシェラフに入れたが、今回は不要だった。



夕食のキムチ鍋

<第3日> : 12/30(金) 曇り後晴れ【館谷 記】

【行動時間】 歩行時間=7H25M

赤岳鉱泉(5:20) → 赤岩の頭 一本(6:20) → 硫黄岳(6:40) → 横岳 一本(7:40) → 地蔵の頭(8:50) → 赤岳(9:40) → 行者小屋 一本(10:10) → 赤岳鉱泉(10:35-11:10) → 美濃戸口(13:05)

3:30起床。昨日より冷え込みが厳しい。ガスで星は見えない。予報では6時以降晴れていくようだが、どうだろうか。朝食はアルファ米とフリーズドライスープの雑炊。身支



横岳山頂近くのハシゴへ向かう

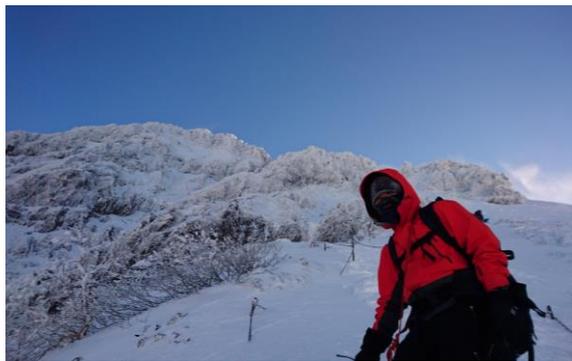
度を済ませ、小田CLと館谷の2人で出発。雪は深くないが、ノートレースなので先行者はいないようだ。硫黄岳への登りを快調なペースで進む。稜線に出る直前でストックをピッケルに持ち替える。硫黄岳に着くが、昨日ほどの風は吹いていない。ガスはまだ晴れないが、横岳へ向かう。昨日の撤退地点を越え、核心部に取りつく。山頂付近は雪が深く、鎖の半分以上は埋まっていた。アイゼンとピッケルをきかせながら、

慎重に進む。徐々に青空が見え始め、絶景への期待が膨らむ。積雪期用のハシゴ、直下の痩せ尾根を越え、7:40横岳奥ノ院。登頂の喜びを分かち合う。ひとしきり写真撮った後、先に続く難所に向け気を引き締め直す。嫌らしいトラバース、いくつかの岩場を越え、地蔵の頭に着いたころには、雲ひとつない青空が広がっていた。



赤・中・阿弥陀

眼前に広がる景色に見惚れながら、赤岳を登る。雪のコンディションが良く、難なく登頂。風が強いためすぐに文三郎尾根を下る。行者小屋でアイゼンを外し、しばし美しい稜線を眺める。登頂の実感が込み上げる。中山乗越を越え、鉱泉への道を駆け下りる。10:35赤岳鉱泉。テントを撤収し、後ろ髪を引かれながら美濃戸口へと向かう。北沢ルートは凍結箇所が多く、チェーン



文三郎尾根を下る

アイゼン程度は着けた方がよいと感じた。美濃戸山荘あたりでふと振り返ると、雄々しい阿弥陀岳の姿が見えた。次はあちらにも登りたいと強く思う。美濃戸口に到着後、タクシーで渋の湯に移動。縄文の湯で汗を流し、帰路に着いた。

<食糧所見 館谷>

日付	12/28(土)	12/29(日)	12/30(月)	12/31(火)
朝食	各自	パン スープ	雑炊	予備各自
昼食	各自	各自	各自	予備各自
夕食	すき焼き きしめん	キムチ鍋 ラーメン	非常食(各自)	
その他	・コーヒー、紅茶、お茶、コンデンスミルク、おつまみ			

- ・ボッカ力のあるメンバーだったので、夕飯は二食とも鍋にした。材料は重いが満足度は高い。
- ・雑炊はアルファ米とフリーズドライのスープなどの材料をまとめてジップロックに入れてパッキングした。時間のない朝でも手際よく調理できた。
- ・ロースターが1つあるとおつまみのクオリティが上がる。

<気象報告 谷川>

12/28(水)



登山口／晴れ -3℃ 微風

黒百合平／晴れ -9℃ 微風

朝までは冬型の気圧配置、稜線は雲に覆われ、北西から北寄りの風が強く、ふぶく。日中は冬型が緩むため、風が徐々に落ち着き、次第に晴れ。

12/29(木)



黒百合平／晴れ～曇り -12℃ 微風

赤岳鉱泉／晴れ -6℃ 微風

本州付近を東進する高気圧に覆われ、日中はきな崩れはないが、稜線では西寄りの風が急速に強まる。

12/30(金)



赤岳鉱泉／小雪 -10℃ 微風

赤岳鉱泉／晴れ -1℃ 微風

冬型の気圧配置となり、天狗岳～権現岳の稜線では西よりの風が非常に強く、気温も下がる。

<装備 小田>

今回は軽量化のためエスペースのフライは無くし、内張りだけでの山行とした。内張りがあればテントの保温性はかなり確保できており十分快適であった。これからも雨の心配のない所、時期はこのスタイルで行きたいと思う。

<会計報告 谷川>

【費用】 一人あたり	14,700円
・食材,おつまみ等	12,500円
・高速道路	10,200円(片道5,100円×2)
・ガソリン代	7,800円(移動480キロ、レギュラー130円、燃費8km/リットル)
・車消耗費	2,400円(5円/キロ)
・駐車場	3,000円(1,000円×3日間)
・テン場代	6,000円(1,000円×3人×2日間)
・タクシー代	7,200円(美濃戸口から渋の湯)
・御厚志	▲5,000円
以上合計	44,100円

【差し入れ】不破さん:牛しぐれ煮 ありがとうございます。亀山さん御厚志ありがとうございます。

<リーダー所見 小田>

今回は参加者3人と、かなり少ない人数での山行になってしまったが、同行メンバーは体力もあり、頼りになる2人だったのでそんなに心配はしていなかった。しかし2日目に思わぬ強風に吹かれ、まさかの撤退。しかもその後晴れてくるというなんとも悔しい展開であった。撤退した時点ではかなり風が強かったため、止むを得ないと考えていたが、振り返ってみると、もう少し判断のポイントを先にしてもよかったかなと思う。自分にとっても同行メンバーにとっても良い経験になったと思う。結果的には最終日に予定通りの行程もこなせて大満足の山行であった。またメンバーと美味しい鍋を食べながら、うまい酒が飲め、言うことなしである。今回も良い山行でした。同行メンバーに感謝。

<感想>

当初は天気恵まれて、絶景の八ヶ岳を眺める事を楽しみにしていたが、3日目のテン場で眺めるだけだった。また、歩荷訓練を怠けていたせいで、2日目はかなりバテた。悔しい思いが多かった今回だが、2人の仲間とおいしいご飯とお酒を酌み交わして楽しい時間がなにより、メンバーに感謝です。(谷川)

頼りになるCL・SLのおかげで、安心して厳冬期の八ヶ岳を楽しむことができました。食糧担当になり、やはり冬山の食事はリッチにいきたいと改めて実感しました。それに見合う体力、ポッカ力をつけていきたいと思えます。(館谷)